

2020年3月9日  
株式会社新生銀行

## 「新生ハッカソン」の開催について

新生銀行グループでは、データサイエンスに興味のある大学生・大学院生に対して、ビジネスデータを用いた実践的な分析機会の提供を目的に、データ分析コンテスト「新生ハッカソン」<sup>(※)</sup>を毎年開催しています。本年は、2020年2月17日(月)から2月28日(金)の9日間の期間で開催しました。なお、本年は、開催期間全日程をとおして、新型コロナウイルスの感染予防対策(参加者・関係者の手の消毒、マスク着用の推奨等)を講じたうえで開催しました。

新生ハッカソンとは、参加者の学生が、カードローン商品に申し込んだお客さまの1年後の貸し倒れ確率を予測するモデルを開発するにあたり、最新の機械学習手法を用い、モデルの精度やアイデアの新規性・発展性を競うものです。新生銀行グループが保有する大量のデータを外部の視点から分析し、金融サービスのコア技術である「個人信用リスク予測」の高度化を目指します。今回で4回目の開催となる新生ハッカソンには、12名の大学生・大学院生が参加しました。

最終日の成果発表会では、各参加者より、開発したモデルのフレームとアピールポイント、モデルを活用した分析結果についてのプレゼンテーションが行われました。審査員には新生銀行グループ内外から有識者を招聘し、一般社団法人データサイエンティスト協会 宮腰卓志 理事、株式会社日経BP 岡部一詩 日経 FinTech 編集長、セカンドサイト株式会社 深谷直紀 取締役兼 CTO、新生銀行 平沢晃チーフオフィサー、新生フィナンシャル 川西雅裕チーフリスクオフィサーの5名による審査が行われました。

最も判別力が高かったモデルを開発した参加者に授与する最優秀賞には、大同大学大学院情報学研究科の山本俊介さんが選ばれました。表彰の詳細は以下をご参照ください。

新生銀行グループでは、中期経営戦略において、金融・非金融のビッグデータに対する AI・アナリティクス技術の活用を推進しており、最先端技術をビジネスへ活用するべく研究を進めています。今後も、新生ハッカソンなどを通じて、金融業界でのデータサイエンス人材の育成に努めていきます。

### 【新生ハッカソン入賞者】

最優秀賞	山本 俊介(大同大学大学院 情報学研究科 情報学専攻 修士1年)
優秀賞(精度)	実崎 直人(九州大学大学院 情報知能工学専攻 修士1年)
優秀賞(総合)	大村 和正(京都大学大学院 情報学研究科 知能情報学専攻 修士1年)
データサイエンティスト協会賞	倉内 航 (名古屋大学大学院 経済学研究科 修士2年)
日経 FinTech 賞	立道 悠暉(東京工業大学大学院 経営工学系 経営工学コース 修士1年)
特別賞	陸 伊 (東京大学大学院 情報理工学系研究科 創造情報学専攻 修士1年)

※ 「ハッカソン(Hackathon)」とは「ハック(Hack)」と「マラソン(Marathon)」を掛け合わせた造語で、一般的にはプログラマーやデザイナーなどからなる複数のチームが、与えられたテーマに対し所定の期間集中的に作業を行い、その成果を競い合うイベントを指します。

以上